

当園ではこの度、令和7年度の信貴幼稚園学校評価として、教職員での自己評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。また、自己評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。そのためにも、子ども達にとって相応しい、自然に囲まれ整えられた園環境の中で、様々な活動や体験、勉強をすることで、一人一人の子どもが自ら人と関わりともに切磋琢磨し、自発的主体的な活動を展開させることができるようになります。また幼稚園も、子ども達にたくさんの経験を与え教育することにより、これからの社会で生きる力の基礎となる「心情 意欲 態度」を培います。家庭と園が協力し子ども達を教育することで、園是「あかるく すなおに すこやかに」なる成長を望み、教育目標の達成に努めます。

I. 教育目標

5つの教育目標

- *礼儀正しく感謝のこころをもつ子
- *心身ともに健全でたくましい子
- *豊かな感性をもち意欲的に活動する子
- *聞くこと話すことを大切にする子
- *善悪の判断をすることができる子

5つ教育方針

- *自然に囲まれ整えられた広い園内でさまざまな運動を行い、健全でたくましい身体を作る。（健康）
- *集団生活を通じて友だちと関わり、その中での決まりや約束事を守り、自主性や協調性を養う。（人間関係）
- *生命、自然、身近なものに関心をもち理解するとともに、思考力を養う。（環境）
- *会話、絵本、紙芝居等に親しみ正しい言葉を理解するとともに、相手の話を理解する力、自ら話す力を養う。（言葉）
- *音楽、身体表現、書道、絵画、製作等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力を養う。（表現）

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- *教育課程の編成を充実させる
- *安全衛生への配慮を強化する
- *施設等の安全管理の整備を充実させる
- *子どもの虐待、健康状態の確認体制を強化する

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	園の方針や目標について、保護者の理解を促すように取り組んでいる。	A	・毎月学年ごとに保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを各学年の保育案に載せて、保護者の方にお伝えしている。またホームページでは毎月の様子、ブログでは日々の様子を掲載し、子どもの様子や園行事について、保護者そして一般の方にも公開している。 ・今後も、子どもの様子やクラス全体の様子などを保護者の方にお伝えする機会を充実させ、園と保護者との相互理解を深めていけるようにする。
2	教育課程の編成	園の教育課程・指導計画は、社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しが行われている。	A	・毎月教職員の話し合いを通して、月の指導計画を作成している。また、日々の保育終了後、各自で一日を振り返り、保育の評価反省を行い、次の保育に繋げている。 ・今後、教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。
3	指導計画の作成と評価	教員間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	B	・園長そして先輩教諭からの助言や評価を受けて、それらの意見を取り入れて自身に生かしている。 ・必要に応じて教職員間での話し合いを行い、保育の向上に向けて取り組んでいる。 ・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。(指導案の反省、クラスの状況報告など)
4	教育環境の構成	子どもの発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	B	・たいそう教室で運動用具を使用し子どもの年齢に応じた運動、教材(絵本・たのしいおべんきょう・シール遊び)を通しての教育、また絵画製作などの指導に取り組んでいる。 ・園庭にある自然物を工夫して遊びの素材にする。それぞれ特徴のある4か所の園庭を有効に使う。大型遊具を使用し、こどもの遊びを充実させる。
5	指導とかかわり	子どもの気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。年齢や発達に応じた関わり方をしている。	A	・楽しい毎日を送ることができるよう、日々の保育や遊びを常に創意工夫をする。 ・子どもの遊びが発展するように、ヒントやアイデアを提供していく。 ・一人一人の個性や良さを伸ばしてあげる。 ・子どもの思いや考えを聞き、自信をもって行動できるように見守る。 ・異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりをもてるような取組を検討していく。 ・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった援助をするように務めている。

6	教職員同士の協力・連携	子ども達について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	- 子ども達について、教員間での話し合いを密に行い、情報共有に努めている。 - その場で配慮が必要な時には、近くにいる教員がこどもに思いやりの気持ちと言葉がけをしていく。 - 保育に関して、教員間でお互いに相談し合い、子どもにとって楽しい保育ができるように取り組んでいる。 - 子どものアレルギーや体質的な情報を、職員間で共有し合い、何かあればすぐに対応できるようにしている。
7	研修・研究への取り組み	配慮が必要な子どもに対する保育のあり方について、専門機関と連携を図り、研修研究を行っている。	B	- 配慮が必要な子どもに対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 - 必要に応じて専門機関に相談し、保護者と密に連携をとるようにしている。 - 新任教員が優先的に研修できるよう対応している。
8	安全衛生への配慮	正しい手洗いやうがい、手指の消毒、マスクの着用を伝え、清潔安全に気をつける。	A	- 遊んだ後や食事前の手洗いやうがいの指導、ハンドソープや除菌スプレーを使用し安全衛生を強化している。 - きちんとマスク着用をすること、またマスクを外して食事や運動の際の飛沫について気をつけるように促す。
9	緊急管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	B	- AEDの使い方の確認をする。 - 定期的に地震や火災の避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を深めるよう取り組んでいる。 - 感染症マニュアルを整備し教職員間で理解し合うと共に、保護者の方にも理解を持てるように取り組んでいる。 - 感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
10	遊具等の安全管理	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	B	- 毎朝の掃除をする中で、危険なところを意識して確認するようにしている。 - 遊具の下に安全マットを敷き、ジャングルジムで遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。 - 今後も、定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
11	交通安全、施設等の安全管理の整備	交通安全指導や施設防犯管理体制をハード・ソフト両面から、整えている。	B	- 警察官の指導のもと、交通安全対策や不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。 - 録画機能を備えた防犯カメラでの監視や確認、また出入口付近をしっかり監視、またドアを施錠するなどして、防犯体制を整えている。
12	子どもの虐待、健康状態の確認体制	虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	A	- 登園時に視診を行い、子ども達の様子・状態を確認するようにしている。 - 児童虐待について、外部研修で学んだり行政機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的な対応方法などの理解をさらに深める。

13	保護者への協力 と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	A	・保育参観や個人懇談を通して、園での様子や家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるよう取り組んでいる。 ・日々の電話連絡やれんらくちょう、また学期ごとの連絡票を活用して、保護者の方と連携をとっている。 ・保護者の協力が必要な場合は、役員の方にご協力をお願いしている。
----	----------------	--	---	---

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

Ⅳ. 今後取り組むべき課題

1	教育方針・目標	園の方針や目標について、さらに保護者の理解を促すように取り組む。
2	教育課程の編成	教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているかなど、教職員間で話し合い見直しを行い充実させる。
3	指導計画の作成と評価	教員間で互いの保育について話し合い、また情報共有し合い、評価・反省をして次の保育に生かせるように取り組む。
4	教育環境の構成	子どもの発達段階に即した遊具や用具、素材など、自然物を工夫して遊びの素材にして遊びや、戸外遊びでのボールや砂場遊びの遊具、絵本などを充実させる。
5	指導とかかわりについて	子どもの気持ちに共感し、自信をもたせ、自ら考え、工夫することができるよう見守る。異年齢同士でも楽しめるような活動など、工夫した取り組みを充実させていく。
6	教職員同士の協力・連携	教育、保育の質の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況などを共有し合う。
7	研修・研究への取り組み	新たな保育や教育内容を充実させること、また配慮が必要な子どもに対する保育のあり方についての充実させるために、専門機関と連携を図り研修研究を行っている。
8	安全衛生への配慮	感染症等が流行する前に、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、更なる意識を高めるよう取り組む。子ども達にも日頃から感染予防が大切であることを伝える。
9	緊急管理体制の整備	避難訓練を実施することで、全員で避難経路や手順を確認しあい、スムーズに実施できるようにする。今後は、予期される地震発生を想定した訓練に取り組む。
10	遊具等の安全管理	定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
11	交通安全、施設等の安全管理の整備	交通安全では警察官の指導をもとに、交通ルールの確認や不審者侵入時の対応手順についての子どもへの指導、職員間での共通理解を深める。また、施設面での安全管理を強化する。
12	子どもの虐待、健康状態の確認体制	子ども達の様子・状態を確認するようにしている。子どもの虐待について、外部研修で学び行政機関と連携をとり具体的対応方法などの理解をさらに深める。
13	保護者への協力と支援	保護者と適宜連絡を取り、園や家庭における子どもの様子やかかわり方などを把握して、相互理解を深めていく。

令和7年度 学校関係者評価結果報告書
学校法人 日本橋学園 幼保連携型認定こども園 信貴幼稚園

日 時 令和8年5月13日(水)

内 容

令和7年度度自己評価結果について
令和8年度事業計画について

○評価結果

日頃より職員の皆様には、子どもたちをしっかりと見ていただいていると感じています。しかし、それに過信することなく更なる保育の向上と先生方のスキルアップを目指してほしいと思います。またこの自己評価を通して昨年度の園運営を見直していただいたことで、今後の課題も新たに見つかったことを、今後も職員間で話し合いを重ね、伸ばせるところはしっかり伸ばして頂き、更なる子ども達の成長と8年度から幼保連携型認定こども園として新たなスタートをした園の発展を期待しています。

また安全管理面については、園舎を改築したことでオートロックやドアホンなどで強化されたことと思います。事故を未然に防ぐという点と定期的な安全点検の実施や専門機関との連携、防犯設備等の強化、また子ども達や先生方自身の身の防衛など、身近で起こりうる危険な事象に対して、しっかりとした対策と更なる取組みをお願いします。更に衛生面では8年度から乳児も入園されるとのこともあり、更なる感染対策に万全に期して頂くことを願っています。

評価委員

信貴幼稚園元会長
日本橋学園理事
卒園児保護者
在園児保護者
日本橋幼稚園園長
平群北幼稚園副園長

令和8年度 学校関係者評価委員会開催予定
学校法人 日本橋学園 幼保連携型認定こども園 信貴幼稚園

日 時 令和9年5月12日（水）予定

内 容

令和8年度自己評価結果について

令和9年度事業計画について

評価委員結果報告

評価委員予定者

信貴幼稚園元会長

日本橋学園理事

卒園児保護者

在園児保護者

日本橋幼稚園園長

平群北幼稚園副園長